

ご挨拶

この度は熊谷周三展『この道は故郷へと繋がらない』にお越し頂き誠に有り難う御座います。この展覧会のテーマは“道路”です。

私の実家は秋田にあり、最近は帰郷の際に車を使うことが多くなりました。その道のりは意外に長く、4,5時間もの間、車から道路を見続けることになります。もちろん、綺麗な女性を見かければつい目を離してしまうのですが、真面目な私は再び道路を見続けます。

運転をしていると、大きく切り通された山道に出会います。盆地や平野から外へと出るには、トンネルかこの切り出し道を通らなければなりません。シフォンケーキをカットするがごとく“V”の字に見事に開かれたその道を通る度、私は高揚感と背徳感が入り混じった不思議な気持ちになります。

小さい頃に見た、『十戒』という映画を思い出します。しかし、現代のモーセが開いたであろうこの道路は、再び閉じることはありません。それどころかこの“奇跡”は、私の実家への移動時間を短縮させる為に、3年後にさらに延長されることになります。このままだと、ユダヤ人を搾取せんと鼻息の荒いエジプト勢(もしくは、大型ショッピングセンター)が攻めるのを許してしまいます。現に私はここを何度も行き交いしているのです。

私はいつまでこの道を見続けるのでしょうか。いや、見続けたいとは思いますが。

小さな展覧会ではございますが、どうぞごゆっくりご鑑賞下さい。